

長年の功績が認められ2人に大臣表彰

川嶋雅子氏(木造赤根)が、国民健康保険関係功績者として、厚生労働大臣表彰を受賞しました。

川嶋氏は、昭和56年から通算31年にわたり、旧木造町立成人病センターや旧木造町役場国保介護課、市役所国民健康保険課で国民健康保険担当職員として事務従事したほか、平成25年から現在まで市国民健康保険運営協議会委員として適切な助言を行ってきた功績が認められ表彰されました。



成田悦雄氏(富蒔町)が地方教育行政功労者として、文部科学大臣表彰を受賞しました。

成田氏は、平成20年から現在まで市教育委員会委員(うち4年間は委員長)として、地域住民の意見や要望を聴取して提言し、広く地域住民の意向を反映した教育行政の実現に尽力したほか、児童生徒にとって安心安全で快適な学習環境を整備すべく、住民の理解を得ることに努めるなど、本市の教育振興に貢献してきた功労が認められ表彰されました。



白老町民が本市を訪れリンゴ狩りなどを楽しむ

11/8
森田地区



おいしそうにリンゴを選ぶ参加者

11月7日から3日間の日程で、白老町姉妹都市協会の会員11人が交流事業で本市を訪れ、旬を迎えるリンゴの収穫体験をはじめ、亀ヶ岡石器時代遺跡や高山稻荷神社などを見学して、本市への理解を深めました。

この日、原田元雄さんのリンゴ畑に足を運んだ会員たちは、真っ赤に色づいた「ふじ」の中から、おいしそうにリンゴを選びながらもぎ取っていました。

白老町でアイヌ文化を学びながらインバウンド向けのガイドに携わる、中国出身の地域おこし協力隊鄭延雪(テイ・エンセツ)さんは「初めてリンゴ園の風景を見て感動した。収穫したリンゴは白老町の友人たちに配りたい」と満喫した様子でした。

このほか、つがる市姉妹都市協会が主催する交流会も開かれ、参加者たちは交流の輪を広げていました。

わた帽子の会が市にケア帽子を寄贈

抗がん剤治療の副作用による脱毛の際などに使ってもらいたいと、ケア帽子の普及を進める「わた帽子の会」赤石敏子会長が、市に手作りのケア帽子を31点寄贈しました。

寄贈されたケア帽子は、初期段階に使用するタオル帽子をはじめ、冬用のニット帽、中にはネックウォーマーとしても使用できる帽子など、季節や服装に合わせて使え、種類、色、柄もさまざま。

この日、がん患者とその家族でつくる「ろくつがるの会」長内道子会長と一緒に市役所を訪れた赤石会長は「つがる市が行っている医療用ウィッグ購入費補助金交付事業に共感し、力になりたいと思い寄贈した。使う人が気持ちよく利用して治療にあたってほしい」と話しました。

ケア帽子は市役所国保年金課窓口に展示しています。希望者にはその場で直接お渡ししていますので、お気軽にお声がけください。

11/9
市役所



「わた帽子の会」赤石会長(左)と「ろくつがるの会」長内会長

社会福祉大会開催



福祉の作文を発表する森田中学校3年生永田彩仁君

第19回つがる市社会福祉大会が開催され、一人一人を大切にした福祉のまちづくりに向け決意を新たにしました。「福祉の作文」発表では、市内小中学校から児童生徒6組が登壇し、「たったひとりでも、私の行動で笑顔になる人がいるなら、その行動を続けていきたいし、誇りを持ちたい」「ケアマネージャーとしてたくさんの人たちを助けている母を尊敬し、誇りに思っています」「幸福とは自分だけでは実現不可能で、たくさんの人たちのおかげで成り立っているもの」などと読み上げました。

式典では、市社会福祉協議会の白戸英行会長が「全ての人が住み慣れた地域で健康的にいつまでも楽しく暮らせる地域社会の実現のため、各種施策に取り組んでいきます」とあいさつ。

また、地域福祉の向上などに貢献した個人、団体に対し、白戸会長から表彰状および感謝状が贈られました。

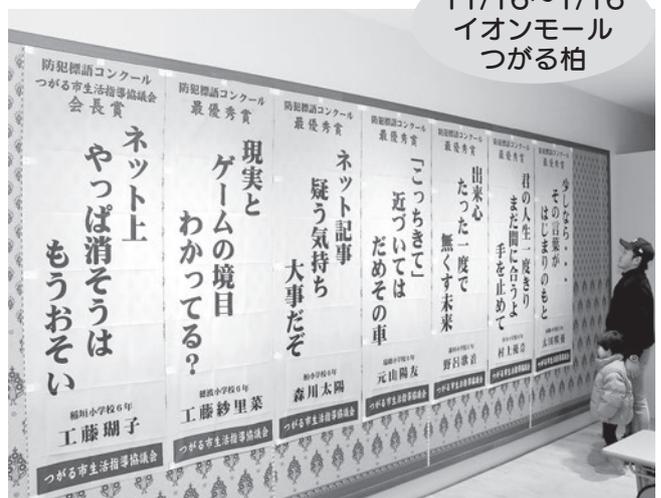
市防犯標語コンクール受賞者決定

犯罪をなくす強い意志を持ち、防犯の心を培うことを目的とした市防犯標語コンクール(市生活指導協議会・市防犯協会主催)が行われ、市内各小学校から応募があった中から最高賞の市生活指導協議会会長賞と、最優秀賞6点を決定しました。

会長賞には、稲垣小学校6年生工藤瑚子さんの「ネット上 やっぱ消そうは もうおそい」が選ばれました。受賞した7つの標語は、のぼり旗にしてイオンモールつがる柏2階アメリカ屋隣の壁面に1/16(火)まで展示され、子どもたちをはじめ広く市民の犯罪防止に向けた意識啓発に役立てられます。

最優秀賞受賞者は次のとおりです。(敬省略)▼向陽小5年太田咲葵、瑞穂小6年元山陽友、穂波小6年工藤紗里菜、柏小6年森川太陽、森田小5年野呂歌音、車力小6年村上優奈

11/16~1/16
イオンモール
つがる柏



のぼり旗にして展示された標語

11/25
旧制木造中学校
講堂

市納税貯蓄組合連合会が納税作品を表彰



表彰式に出席した受賞者の皆さん

市納税貯蓄組合連合会(佐々木富雄会長)は、夏休み期間中に市内の小中学校から納税作品として習字と作文を募集。応募作品173点の中から各賞を選考し、この日、表彰式が行われました。最高賞にあたる市長賞には、習字の部で柏中学校3年生中村彩愛さん、作文の部で稲垣中学校2年生加藤吏莉春さんがそれぞれ選ばれました。

全ての作品は、11月25日から2日間にわたり、旧制木造中学校講堂で展示され、納税思想の高揚と普及に役立てられました。

このほかの入賞者は次のとおりです。(敬省略)

習字▼教育長賞：木造中1年秋田谷帆香、▼納税貯蓄組合連合会会長賞：木造中1年佐々木心乃花、▼金賞：車力小6年鳴海朔玖、稲垣小5年加藤葵、向陽小4年一戸実衣菜、柏小3年山田いち花、柏小2年伊藤妃珠、森田小1年丹代華穂、▼銀賞：向陽小6年成田莉子、柏小5年中村優心、車力小4年小枝鈴実、柏小3年宮崎彩梨、稲垣小2年佐々木瑚都、向陽小1年工藤悠真、▼銅賞：車力小6年小枝華実、稲垣小5年佐々木絃、向陽小4年番場奏、瑞穂小3年長谷川心春、向陽小2年宮本ゆず、稲垣小1年川崎亮太

作文▼教育長賞：稲垣中2年山田谷美來、▼納税貯蓄組合連合会会長賞：稲垣中2年村上瑠奈、▼金賞：稲垣中2年豊川美葵、▼銀賞：稲垣中2年三浦瑠夏、▼銅賞：柏中2年高橋優空

楽しく異文化や姉妹都市交流を理解

11/26
松の館

つがる市姉妹都市協会(清野幸喜会長)が国際交流フェアを開催。訪れた子どもたちや家族連れは、本市や近隣市町の国際交流員(CIR)・外国語指導助手(ALT)たちとコミュニケーションを取り合い、異文化や姉妹都市交流への理解を深めました。

フェアでは、イギリス・フィリピン・フランスといった異国の料理がテイクアウトで振る舞われ、人気を集めていました。

また、子どもたちは、姉妹都市の米国メイン州バス市から送られた貝殻などを材料にした貝殻アート作りを体験したり、アメリカ式プレゼント交換会で珍しい他国のクッキーや綿菓子などをもらったりして喜んでいました。

フェアに訪れた女の子は「貝殻アートは難しかったけど、楽しかった。また参加したい」と話しました。



テイクアウト料理の振る舞い



クリスマスバルーンづくり



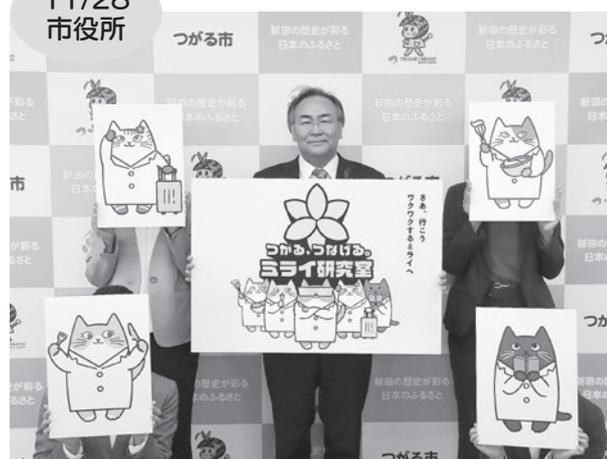
貝殻アートづくり



CIR・ALTたちの自己紹介

つがる、つなげる。ミライ研究室が発足

11/28
市役所



紹介されたミライ研究員のメンバーのアイコン

市は、若い世代の意見を生かして、少子高齢化といった市が抱える課題を解決し、わくわくする未来につなげる街づくりのため「つがる、つなげる。ミライ研究室」を立ち上げました。

この日、結成式が開かれ、倉光市長は「自分の業務がある中で、この研究室に加わって活動していくのは大変だと思うが、がんばってほしい」とメンバーになる市職員を鼓舞し、4人に任命証を手渡しました。

この研究室では、つがるブランド農産物を使い市民が誇れるお土産の開発や、市の魅力を発信する広報活動などを行います。

また、職員個人よりも活動に着目してもらおうと、メンバーの職員それぞれにアイコンと呼ばれる分身を設定。

今後、擬人化した猫のキャラクターが、職員に代わり表に立って活動をPRしていきます。

市役所、稲垣出張所、車力出張所およびつがる出張所(イオンモールつがる柏内)の各窓口で、証明書の交付申請や印鑑登録申請、住民異動届(転入・転出・転居など)の手続きの際、職員が申請者に内容を聞き取りながら申請書等を作成する「書かない窓口」が始まりました。

申請者は、窓口でマイナンバーカードや運転免許証などの本人確認証を読み取りして作成された申請書等の内容を確認し、間違いがなければ署名するだけで手続きが完了します。申請書等のどこに何を記入したらいいのか迷うことがなく、書く手間も軽減されます。

この日、書かない窓口を体験した倉光市長は「申請書に書く必要がなく、確認の署名だけで手続きが終わるので非常に早く感じました。まだマイナンバーカードを取得していない方はぜひ取得してほしい」と話しました。

書かない窓口が始まる

12/8
市役所



印刷された申請書の内容を確認する倉光市長

市民と行政 協働のまちづくり

市自治会連合会 「市政懇談会」



自治会長と意見を交わす倉光市長

市自治会連合会（白戸英行会長）が「市政懇談会」を開催しました。

これまで市内の全自治会を対象に1つの会場で開いてきましたが、今年はきめ細かに意見交換を行うおうと、木造・森田・柏・稲垣・車力の地区ごとに分け、10月から11月にかけて、全5回開催。出席した自治会長らは、各地域が抱える課題や市への要望などについて、倉光市長や市の幹部職員と意見を交わし、住みよい地域づくりに向けて、さまざまなアイデアやそれぞれの役割について考えました。

また、各地区の市政懇談会では倉光市長の特別講話も行われ、2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す「カーボンニュートラル」に関する取り組みや洋上風力発電事業の進捗状況などを解説しました。



テーマ 空き家および ブロック塀

末吉自治会 相馬重信 会長



Q

空き家の樹木等の防除や伐採等に、許可は必要か。また、ブロック塀が老朽化している箇所の倒壊防止策を市は行っているか。

A

空き家の樹木等の防除および伐採については、所有者等の許可が必要ですが、本来、ブロック塀を含む空き家の維持管理については、所有者が責任をもって実施しなければなりません。管理不全の空き家の情報などありましたら市にご相談ください。所有者へ適正に管理するよう注意喚起してまいります。

市では、老朽化が進んでいるブロック塀の耐震改修、建て替え、除去費用の一部として上限12万円を補助する事業を実施しています。（令和5年度分は終了）

テーマ 買い物物支援

吉出自治会 三上保男 会長



Q

買い物弱者になりうる高齢者がつがる市でも増えてきていると思うが、そういう方々のために、移動販売事業者への支援を行ってはどうか。

A

現在、木造地区と稲垣地区の二部で民間2業者、NPO1法人により移動販売が行われていますが、その他の地区においては、体制が整っていないなどの理由から実施されていない状況です。

今後、高齢化が進むとともに、店舗の減少が顕著であることから、買い物弱者の増加が想定され、市としても対策の必要性を認識しています。段階的にでも、市内全域に移動販売を拡充させるべく方策を現在検討しているところです。

テーマ 高齢者の 移動支援

下繁田自治会 小関信幸 会長



Q

移動手段を持たない高齢者や、運転免許証を自主返納した高齢者を対象に、通院など日常生活の移動支援のためにタクシー利用助成を行ってはどうか。

A

今後、高齢化が進む中、高齢者の移動支援については本市としても重要と考えております。

市では、高齢の交通弱者を対象にタクシーの料金助成事業等の支援事業を現在検討しているところです。

